パフォーマンス目標の設定とテストの認知との関係

○中野友香子

(東北大学大学院教育学研究科)

キーワード：パフォーマンス目標，達成目標，テスト

Relationship between Performance Goal setting and importance of test

Yukako NAKANO

(Graduate School of Tohoku University)

Key Words: Performance Goals, Achievement Goals, Tests

目 的

達成場面で設定する目標として，達成目標があり，絶対的／個人内基準に準拠したマスタリー目標と，相対的基準に準拠したパフォーマンス目標の二つから説明される。両者は，さらに，接近／回避の次元で区分できるとされる (Elliot & Murayama, 2008)。達成目標は状況に依存するとされており，そのうちのパフォーマンス目標は，特に，テスト不安や遂行成績など，テスト状況下で学習者の反応と関係することが指摘されてきた (Elliot & McGregor, 1999)。ただし，テスト状況といっても，その目的や評価方法は多様であり，受検者によって，その捉え方も異なるといえる。このようにテスト場面が多岐に渡ることと，達成目標が場面間で異なるという指摘を踏まえると，パフォーマンス目標の設定を捉える際にも，状況的要因を考慮する必要があるといえる。そこで，本研究では，テスト場面に付随する状況的要因や，場面の認知という側面を踏まえながら，テスト状況でのパフォーマンス目標の設定について量的・質的に検討することを目的とし，質問紙調査を行う。

方 法

協力者 専門学校生 (37 名) 及び大学生 (90 名) の計 127 名 (男 50 名，女 77 名，平均年齢 19.98±1.19 歳)

質問紙 A. テスト不安: RTT (Sarason, 1984) 40 項目。B. 重要なテスト場面のエピソード: 自由記述。C. B でのテストテイキング態度尺度 41 項目 D. B に向けた学習時の達成目標: AGQ-R (Elliot & Murayama, 2008) の 4 目標 (マスタリー／パフォーマンス×接近／回避) 各 3 項目の 12 項目，5 件法。本研究では，B の分類と，B と D との関係を報告する。

結 果

1. エピソードの分類

合計 274 エピソード (一人当たり 1~5 エピソード) を抽出した。**具体的なテスト場面に関する記述** (99 エピソード (以下同様)) 具体的な場面に関する記述は，入学試験 (高校入試・大学入試・センター試験等 58)，学校内で行われる試験 (定期/期末試験・専門分野の試験・卒業認定試験等 17)，就職試験 (国家資格の認定試験・教員採用試験等 24) の 3 種類に大別できた。

テストが重要である理由に関する記述 (131) **テスト結果に付随する要因** (116) テスト結果が何かに影響するという旨の記述があった (「～が決まる」「～がかかっている」等)。影響する要因は，結果が直接影響する具体的な要因と (単位取得 30，資格取得 4，追試の有無 2，進級の可否 26，合否判定 22)，将来的に影響する抽象的な要因 (将来の自分: 進路 8，将来 17，人生 7) とに大別できた。**失敗のリスクの大きさ** (15) 失敗のリスクの大きさ (「やり直しがきかない」等) に関する記述がみられた。**その他の記述** (44) 課題や難度 (18) や，失敗する可能性が高いこと (「失敗しそう」「落としてしまいそう」等 5) に関する記述があった。残りの記述は分類不能であった (「勉強したところが多く出ている」「今までやったことが全て出るテスト」等 21)。

2. パフォーマンス目標とエピソードの関係

パフォーマンス目標の高低群分け パフォーマンス接近目標 (3.06±1.08) 及びパフォーマンス回避目標 (3.12±1.11) の平均値を基準に高低群分けを行った (Murayama, Elliot, & Yamagata (2011) を参考とした (接近 3.13±1.21; 回避 3.14±1.16))。両者ともに低群だった 57 名をパフォーマンス目標低群，高群だった 51 名をパフォーマンス目標高群とした。

パフォーマンス目標高低のエピソード数の比較 エピソード数は，低群 123 (一人平均 2.10±1.13; 文字数 24.84±13.03)，高群 111 (一人平均 2.20±1.07; 文字数 21.96±14.81) であり，平均値の群間差は有意でなかった ($t_{(106)}=1.98, n.s.$)。1 の分類に沿って，パフォーマンス目標高低群ごとに各分類に属するエピソードの有無を分類して比較したところ，具体的なテスト場面の記述と (特に校内での試験及び就職試験)，テスト結果が将来に影響するという旨の記述の量に特徴がみられた。

TABLE パフォーマンス目標高低群ごとのエピソードの有無

	具体的なテスト場面			テストが重要な理由			その他		
	入試	校内	就職	結果に付随する要因	具体的	将来的	失敗のリスク	内容	失敗可能性
低群	23	5	8	38	21	8	11	1	8
高群	27	11	13	34	8	5	3	2	8

考 察

重要なテスト場面として，入試，大学での試験，就職に関わる試験の 3 種類が挙げられていた (結果 1)。エピソードの分類より，特に，結果が単位取得等の報酬や追試等の負担，進路に影響を与えることを，重要なテストの条件と考えていることが示された。結果が受検者の将来や意思決定に大きく影響するテストは，High Stakes テストと呼ばれるが (山森, 2009)，本結果は，多くの協力者が，重要なテストとして，High Stakes テストをイメージしていたことを示すものである。

また，結果 2 より，パフォーマンス目標を高く設定していた者は，長期的な視点というよりも，短期的な視点で重要なテストの特徴を捉えていたことが示された (結果 2)。これは，High stakes テスト状況下でのパフォーマンス目標の設定と，長期的なスパンで，テストのもつ意味を位置づけられることが，関係する可能性を示す結果といえる。今後は，テストの価値や重要性に関する長期的／短期的な視点と，パフォーマンス目標の設定が関係するメカニズム等について，詳細な検討を行っていくことが必要であろう。

引用文献

- Elliot & McGregor. (1999). Test Anxiety and the Hierarchical Model of Approach and Avoidance Achievement Motivation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 76(4), 638-644.
- Elliot & Murayama. (2008). On Measurement of Achievement Goals: Critique, Illustration, and Application. *Journal of Educational Psychology*, 100(3), 613-628.
- Murayama, Elliot, & Yamagata. (2011). Separation of Performance-Approach and Performance-Avoidance Achievement Goals: A Broader Analysis. *Journal of Educational Psychology*, 103(1), 238-256.
- Sarason. (1984). Stress, anxiety, and cognitive interference: Reactions to tests. *Journal of Personality and Social Psychology*, 46(4), 929-938.
- 山森光陽 (2009) 教育評価とテスト 電子情報通信学会誌, 92(12), 1031-1035.